

# 明治中期における南北官話の一考察 九江書會版『官話指南』、『官話類編』、書き入れ版『官話指南』を中心に

東洋大学・北京語言大学東京校非常勤講師

孫 云偉

Sun Yunwei

## 目次

1. はじめに
2. 研究資料
3. 先行研究
4. 三書に収録されている南北官話
5. おわりに

## 1. はじめに

南北官話について、筆者が書いた『明治期北京官話教科書「官話指南」及び学習補助教科書の総合研究』（2019）は、九江書會版『官話指南』（以下、九江版『指南』と略称する）を研究資料として分析した。九江版『指南』は『官話指南』の改編本であり、全書にわたり一部の字句が双行注となっているが、序文と奥付などがなく、追記した部分について必ずそれが南方官話であると言えない。また、内田慶市氏、氷野善寛氏（2016：302）により、双行注を施した教科書は九江版『指南』以外に『官話類編』（以下、『類編』と略称する）もこの種の注を施した。同じく『官話指南』を底本とした書き入れ版『官話指南』（以下、書き入れ版『指南』と略称する）は、双行注の形ではないが、本文の横に手書きの書き入れがなされておる<sup>1</sup>。書き入れ版『指南』に関する研究はわずかであるが、それに対して、『類編』と九江版『指南』についての研究はすでに多くの成果を発表された。前述したように拙稿（2019）は張美兰氏、李穎氏（2007）、張美兰氏（2008）、齊灿氏（2016）の研究を踏まえ、郭锐ら（2017）<sup>2</sup>の南方官話の論説により、更に初版『官話指南』との比較研究を通して、九江版『指南』の南北官話を整理した。これらの整理はあくまでも右文<sup>3</sup>の表現は北京語の特徴を持つ語彙であり、左文は郭锐らの論説に該当すれば南方官話としてとらえた。そのために、本稿は拙稿（2019）に挙げられた南北官話の正確性、及び明治中期の南北官話の特徴を明確するために、九江版『指南』、『類編』、書き入版『指南』との比較研究を行いたい。

## 2. 研究資料

<sup>1</sup> 書き入版『指南』の書き入れは必ず左側にあるわけではないが、本稿では統一のために、原文は右文、書き入れは左文と称する。

<sup>2</sup> 郭锐、翟贇、徐菁菁〈汉语普通话从哪里来？—从南北官话差异看普通话词汇，语法来源—〉（2017：8）は“来自北京官话的词汇具有口语色彩，较为通俗；来自南京官话的词汇具有书面语色彩，较为正式。”と指摘している。

<sup>3</sup> 右文は『官話指南』の原文を右に記載し、左文は追記された表現である。

### (1) 九江版『官話指南』

九江版『指南』は明治26年(1893)に九江印書局から出版された。全書は「應對須知」、「官商吐屬」、「使令通話」、「官話問答」から構成され、計190頁から成る。初版『官話指南』の「凡例」、「序」、「目次」を削除し、右文の底本も初版『官話指南』ではないが<sup>4</sup>、内容の構成は初版『官話指南』と全く同様であり、一部の字句のみ異なっている。九江版『指南』の扉の右側に「西歴一千九百八十三年 九江書會著」、中央に「官話指南」、右側に「大清光緒十九年癸巳歲 九江印書局活字印」とある。本文の双行注は改訂増加箇所のみ一回り小さい字で2行にされ、右(右文)に『官話指南』の原文、左(左文)に著者の九江書會が追記した表現を配置している<sup>5</sup>。

### (2) 『官話類編』

『類編』はC. W. Mateerが編纂し、明治31年(1898)上海で出版された教科書である。全書は序文(PREFACE TO FIRST EDITION)、目次(CONTENTS)、前書き(INTRODUCTION)、凡例、序、学習提案(Suggestions to the Student)、凡例、序、本文(LESSON)、付録(SUPPLEMENT)から構成され、計376頁である。この教科書は「官話」を学ぶために作成したが、この「官話」は役所用語ではなくて、「通行之話也」と述べた。そのために、本文の内容は著者が《聖諭廣訓》《好逑傳》《西遊記》《水滸傳》などから取り出した士農工商らの日常会話である。また、全書の一部の語彙は並列記載されて、すなわち双行注である<sup>6</sup>。この双行注の説明について、序は「以通行者為是。兼有不通行者，則並列之。其列法：北京在右，南京在左，如有三行并列，即山东局其中也。」と述べた

### (3) 書き入れ版『官話指南』

書き入れ版『指南』は「序」、「凡例」、「目次」、「應對須知」、「官商吐屬」、「使令通話」、「官話問答」から構成され、全93頁ある。一見すると書き入れ版『指南』と初版『官話指南』の内容配置は一致しているようである。また、書き入れ版『指南』の扉の右側に「主降生一千九百年」、中央に「官話指南」、左側に光緒二十六年、福州美華書局活板」とある。最後の頁に「明治辛丑六月於清國上海獲之 藤澤黃鵠」と書いておる。書き入れは巻一、巻三の全て章及び巻二第一章から第十四章までに見られる。書き入れ版『指南』は九江版『指南』、『類編』と異なり、文全体を書き替えたこともある。また、カナで漢字の読み方を表記している箇所も稀に見られる。

## 3. 先行研究

三書の中に九江版『指南』に関する研究は一番多く、南北官話についての研究は以下の通りである。

張美兰氏、李穎氏(2007)は九江版『指南』において双行注の考察を通して、南北官話で

<sup>4</sup> 孫云偉 2019、79頁。

<sup>5</sup> 本研究ではそれぞれ「左文」と「右文」と称する。

<sup>6</sup> 山東語は南京語と北京語の真ん中に置いておるが、本稿では統一のために、双行注と称する。

対応する表現 78 組を挙げた。これらの語彙は 19 世紀末の北方官話と南方官話の特徴が表れていると述べ、さらに“趕、打、解、起、按、叫、給”などが当時の北京語の特徴を有する介詞であるとも指摘した。

張美蘭氏（2008）は張美蘭氏、李穎氏（2007）の研究を踏まえて、九江版『指南』の双行注に見られる名詞、動詞、形容詞、副詞、助詞などを再考察し、さらに 48 組の南北官話で対応する表現を新たに挙げ、右文の語彙は今日の北京語辞典あるいは方言辞典、および北京語の口語で使われると指摘した。

齊燠氏（2016）は九江版『指南』と『類編』を中心に、19 世紀末期の南北官話の介詞を「時間類」、「憑借・方式類」、「原因・目的類」、「対象・範囲類」、「処置・被動類」に区分し、比較研究を行った<sup>7</sup>。さらに、これらの介詞を《兒女英雄傳》、《普通話基礎方言基本詞彙集》、《漢語方言大詞典》、《南方方言志》などと比較し、九江版『指南』と『類編』に使用された介詞の種類が豊富で、介詞の用法も比較的揃っていて、多くの介詞の使用状況が当時の南北官話の実情と符合すると論じた。

尾崎實氏の遺稿（2007）は江南語作品である《上海的早晨》（周而復著）《上海十年文学选集》（周而復著）、矛盾の作品、山東語である《苦菜花》（馮德英著）及び北京語である老舍の作品を参考にし、『類編』に収録されている南北官話を整理した。整理した南北官話は双行注の六割を占めていると述べた。

日下恒夫氏（1974）はまず藤澤黃鵠の生涯を調査し、本書の書き入れは藤澤黃鵠が 1901 年南京滞在中に中国人である黃乾、李田両氏から会話を学んだ際の記録であると論じた。それから、九江版『指南』、『類編』、太田辰夫が著した「北京語の文法特徴」および南方語に関する辞書を参考にし、書き入れ版『指南』において南北の方言差について分析した。

#### 4. 三書に収録されている南北官話

前述にした通り、拙稿（2019）は張美蘭氏、李穎氏（2007）、張美蘭氏（2008）、齊燠氏（2016）の研究を踏まえて、先行研究に挙げられた南北官話と先行研究で触れなかった南北官話を整理し、全 282 組を挙げた。そのうち、先行研究以外に北京語特有の語彙に属し、さらに郭鋭らの論説と該当した南北官話は 208 組を挙げた。また、前述の先行研究から見ると、三書に追記した部分は南方官話があるが、左右の対立はそのまま南北官話の対立を絶対的に表示したものではないと思われる。そのために、本稿は三書の双行注を比較し、南北官話を品詞ごとに整理した。以下に掲載する対照表に紹介する。

一、以下に掲載する対照表の南北官話を挙げられた基準は三書の中に少なくとも二書に収録されたこと。

---

<sup>7</sup> 時間類は“在、到、趕、从、起、打、往、由、上、及、至、当、於、臨、自从、及至、解、届”の 18 個、憑借・方式類は“拿、用、按、照、依、以、随、论、仗、从、据、如、按照、遵照、在”の 15 個、原因・目的類は“因、以、为”の 3 個、対象・範囲類は“和、跟、同、与、连、带、除、除了、在、到、给、为、替、以、比、于、如、对、乎、论、至于、由、起”の 23 個、「処置・被動類」は“把、将、以、被、叫、教、给、等”の 8 個がある。

二、この対照表は、「-」で右文（原文）と左文（追記した部分）を区分し、左側が北京官話、右側は南方官話であることを表す。例えば、道-路。

三、追記した部分は2つ以上の語彙がある時は「,」で並列を示した。例えば、右文の「大夫」に対し、左文に「郎中」と「醫生」を追記した時は「大夫-郎中, 醫生」と表記した。

四、「/」で九江版『指南』、『類編』、書き入れ版『指南』の順で区分している。例えば、右文は「見天」、九江版『指南』、『類編』、書き入れ版『指南』に追記された表現はそれぞれ「天天」、「天天」、「每天」の場合、「見天-天天/天天/每天」で表す。ただ、左文の南方官話は三書共に同じである場合に「道-路」で表す。

五、この対照表では、九江版『指南』、『類編』、書き入れ版『指南』それぞれ『九』、『類』、『書』と簡称する。以下に挙げられた南北官話は三書共に収録されている場合は文頭に（三書）、九江版『指南』と『類編』に収録されている場合は『九』と『類』、九江版『指南』と書き入れ版『指南』に収録されている場合は、『九』と『書』で示した。

九江版『指南』、『類編』、書き入れ版『指南』に収録されている南北官話の対照表

| 品詞 | 北京官話（右文）-南方官話（左文）   |
|----|---|
| 名詞 | <p>三書：道-路、地-路、野猫-兔子、幌子-招牌、耗子-老鼠、後兒個/後天、學房-學堂、每天/天天、價兒-價錢、鋪-店、整天家-整天的</p> <p>晌飯-午飯/中飯/中飯、大夫-郎中, 醫生/郎中, 醫生/醫生, 先生、見天-天天/天天/每天、今兒個/今天, 今天的, 今日的/今天/今天、今儿-今日, 今天/今日, 今天/今天、娘兒們-婦人家/婦人家/女人家、明兒-明天, 明日/明天/明天、昨兒-昨天, 昨日/夜來/昨天、昨兒個-昨天, 昨日/昨天/昨天、師傅-先生/司務/先生、晌午-中時, 下午/中時, 中上/中上、黑下-黑夜, 晚上/下黑, 夜裏、黑夜</p> <p>『九』と『類』：晚上-下晚、屋子-房子、鈕子-扣子、街坊-鄰舍、匙子-挑子/調羹、勺子、別家-別人/別的, 別、胡同/衚衕-巷子, 巷、掌櫃的-老板, 管帳的, 管事的, 司務/夥計, 先生, 老板/老板, 掌尺的, 掌作的、前兒個-前天, 前幾天/前日, 前天、剛纔-放纔/疆纔、秫稽-竹棍/高粱、往後-以後/日後、早起-早晨/早上、一塊兒-一堆兒</p> <p>『九』と『書』：房-房子、工夫兒-時候、腳下-目下、雞子兒-雞蛋、前些年-前幾年、茅房-茅廁、炕-鋪/床、職名-片子/名片、宅裏-公館/家裏、宅-公館/家、職名-片子/名片、苦力-挑夫, 挑子, 小工/挑夫, 打襪</p> <p>『類』と『書』：孩子-娃娃、營生-事情、擺臺-擺桌子、先頭裏（先頭）-起先/從前、體面-講究/好看、無賴子-馬流人, 流屍/無依的人</p> |
| 動詞 | <p>三書：沒-沒有、忘-忘記、讓-請、覺着/覺得、沏-泡、起身/動身、忌-戒、使-用、耍-玩、耍-做、瞧-看、扔-丟、知道-曉得、做活-做工、做活-做生活、給（給予）/把（給予）、巴結-造就/巴想, 盼望/進、撒謊-掉謊/扯謊/扯謊、拾掇-</p>   |

|     |   |
|-----|---|
|     | <p>收拾/扎裹/收拾、使喚-使用/使用/用、溜達-溜打/遊逛/遊玩、掖-放/塞/塞，放、挪-搬/磨/搬</p> <p>『九』と『類』：賣-換、做飯-弄飯、把-拿、拿-捉、管保-保管，包管/保管、叫-等、做-弄、上臚-長肉/長臚、乏-※<sup>8</sup>/倦、犯-發、巧了-奇了/好像</p> <p>『類』と『書』：挨-挨-等一等、打點-打算/收拾、丟-失/掉、攪-攪-拉-拉、幹-作/做、歸着-歸齊/收拾、拐彎兒-轉彎兒 逛-玩、取（銀子）-發/兌、胡吹混嘮-驚天動地/胡吹混講、使得-可以/作得、網上-網好、帶上-帶去、讓-請、照-看、招-加、邀-秤/稱、望-看/來</p> <p>『類』と『書』：叫門-敲門，打門-敲門、滅-鳩（鳥）、照舊-照樣，原樣/仍舊、喝-吃/喫、擦-抹、摩挲-摩搓/抹挲</p> |
| 形容詞 | <p>三書：～折-～斷、賤-便宜、舒坦-舒服，熨貼/受用/舒服</p> <p>『九』と『類』：強-好、對勁兒-合式/合脾氣、大好-全好/好過</p> <p>『類』と『書』：短-少、輕省/輕鬆、磨稜子-竟挨/耽擱工夫、迷迷糊糊-磨磨習習/糊裏糊塗、雲山霧照-海闊天空/雲裡霧裡、白/不過/隨便、哦噠半片-※/邈裡邈邈、筋筋兒-※/老了</p> <p>『類』と『書』：晚-遲、涼-冷、俐羅（掣）-俐束，熨貼、掣俐/請清楚楚、打前失-打前絆，打踢絆/打踢絆</p>   |
| 量詞  | <p>三書：頭（驢子）-匹、倆-兩個、倆-兩人/兩個/兩人</p>   |
| 代詞  | <p>三書：咱們/偌們-我們、咱-我、他納-他、您納-您、誰-那個，那/那個/那、那兒-那裡、那麼着-那麼的/那麼樣、這麼-這樣、這兒-這裏</p> <p>多咱-多時，多早，麼早，幾早/多時，多早，麼早，幾早/那天，那時、多少-多幾、自各兒-自己/自己/自己一個</p> <p>『類』と『書』：各人-自己</p>  |
| 介詞  | <p>三書：打-从、趕-等、給-把、給-替、叫-被、起-從、按着-照着</p> <p>『九』と『類』：給-與、趕-到</p> <p>『九』と『書』：解-從</p>   |
| 副詞  | <p>三書：原本-本來、別-莫/莫/不要，莫、老-總、總得-總要、敢情-原來、抽冷子-冷不防，不防備/打不瞧，冷不防，冷地里，偷冷的，乍猛的/偷冷</p> <p>『九』と『類』：冷不防-不防備/冒不通，猛過地、冷孤丁-忽然/冷打驚，打冷驚、趕緊-趕急/上緊、也許-或許/行許</p>   |
| 助動詞 | <p>三書：得-要</p>   |
| 连詞  | <p>三書：可/卻</p>   |
| 助詞  | <p>三書：來着-來呢/來呢/來的</p> <p>『九』と『類』：的-得</p>  |

<sup>8</sup> 九江版『指南』では追記した左文は空白で、ここでは※で表す。

|     |   |
|-----|---|
| 数詞  | 三書：好些個-好些，好多的，許多的/好些                    |
| 感嘆詞 | 三書：嗑-是                                  |
| 語氣詞 | 三書：得了-好了（就）得了-是了/好了/是了，可以了              |
|     | 三書：可不是麼-那待是啊<br>『九』と『類』：着點兒涼-受了點兒寒/受了涼打 |

上表には南北官話の表現 162 組を挙げた。「野貓、學房、衙衙、僭們、巴結、覺着、炕、來着」などのような北京語辞典や、先行研究に収録している北京語語彙を左文に追記した表現は南方官話としてよいと思われる。南北官話の介詞についてすでに多く研究されたので、上記先行研究に挙げられた打、趕、起、解”などの北京語特有の語彙は三書共に南方官話に替えられた。また、「道-路、地-路、沒-沒有、忘-忘記、可/卻、得-要、賤-便宜、讓-請、每天-天天、可不是麼-那待是啊」などのような三書の左文は同様な表現に追記した場合は、その表現は南方官話として認めてよいとかがえる。

また、『類編』は左、右文以外に、真ん中に山東語も追記された。「大夫、晌午、別家、掌櫃的、無賴子、叫門、冷不防、冷孤丁」を「醫生、中時、別、掌尺的、流屍、打門、冒不通、冷打驚」に替えられた。追記した部分を見ると、九江版『指南』と書き入れ版『指南』では「醫生」という表現のみを南方官話として収録されている。それ以外の表現は九江版『指南』と書き入れ版『指南』に見られない。

上述した三書の右文は全て北京語特徴を持つ表現である。それに対して、右文の北京語特徴それほど著しくない表現についての分析は以下の通りである。

#### (1) 方向補語“上”

齊如山氏（2008：143）により、北京語の中で「上」よく使われて、「起手」、「上场」の意味を表す。周一民氏（1998：52）は「上」を方向補語として北京語の口語表現に収録されている。九江版『指南』では「上」を「到、去、進、着」等に替えられたが、書き入れ版『指南』では「到、了」に追記された。下の例文を見ると、九江版『指南』と書き入れ版『指南』の「上」は「起手」、「上场」の意味ではないが、方向補語や、「到；去（某个地方）」として使われている際に、この「上」は北京官話として使われる傾向がある。

1) 願意上/到別處當夥計去也使得。（九江版『指南』2-14、書き入れ版『指南』2-14）<sup>9</sup>

2) 如數都交換上/了。（九江版『指南』3-5）

叫他們立刻給換上/了交給你帶回來。（書き入れ版『指南』3-19）

3) 您把收拾表的傢伙帶上/去。（九江版『指南』と書き入れ版『指南』2-14）

<sup>9</sup> 「/」で右文と左文を区分している。例えば、1) の例のように「上」は右文（原文）の表現、「到」は括弧内の九江版『指南』と書き入れ版『指南』が追記した左文である。また括弧内の数字は巻と章を示す。「2-14」は巻之二の第14章を指す。

4) 拿繩子捆上/捆好。(九江版『指南』、書き入れ版『指南』3-9)

(2) 人称代名詞「誰」

三書では人称代名詞「誰」がほとんど「那個、那」に替えられた。九江版『指南』と書き入れ版『指南』は「誰」を「那個、那」に、『類編』では「那個」に追記された。要するに、「誰」は北京官話、「那個、那」は南方官話であると言える。

5) 誰/那個叫門。(『類編』第34課)

6) 那個銀子和衣裳是在那家偷出來的。(九江版『指南』2-30)

(3) 時間名詞「夜來」、「下晩」

九江版『指南』と書き入れ版『指南』では「昨兒」を「昨天、昨日」に変更したが、『類編』では「昨兒」を「夜來」に追記された。「夜來」は宋代からすでに「昨夜、昨天」の意味があるが、『現代汉语词典』(2005:1591)では、「夜來」が「昨天、夜间」の意味を表し、書面語として収録している。また、遼東半島<sup>10</sup>では「昨天」を「夜來」とも言う。明治中期の双行注を附した教科書の中に、『類編』しか収録していないが、当時では「夜來」が南方官話として使われていることがわかった。また、九江版『指南』と『類編』は「晚上」を「下晩」に替えられた。「下晩」は「夜來」と同じく遼東半島でも言う言葉であり、「晚上」の意味である。徐世榮氏(1990:420)は「下晩儿」を収録し、「剛剛天黑的時候」の意味を表す。以上のことから、「下晩」は当時の官話共通語であると推測できる。また、同じく当時の官話共通語に属する表現は「認識」と「營生」がある。書き入れ版『指南』では「營生」を「事情」に、『類編』では「事情」を「營生」に変更した。

7) 你昨兒/夜來不是這麼說的嗎？(『類編』第117課)

8) 趕到晚上/下晩那個無賴子…。(九江版『指南』2-6)

9) 明兒晚上/下晩我要請客。(『類編』第16課)

10) 你不認得/認識我嗎？(『類編』第8課)

11) 還有別的營生沒有？(『類編』第22課)

(4) 「秫稽」、「巧了」、「磨稜子」

「趕緊、剛纔、巧了、扔、秫稽、往後、也許、早起、一塊兒、對勁兒、大好」などの表現は九江版『指南』の左文にそれぞれ「趕急、「放纔」、「竹棍」、「以後」、「或許、「早晨」、「一堆兒」、「奇了」、「合式」、「全好」に、『類編』の左文はそれぞれ「上緊」、「疆

---

<sup>10</sup> 遼東半島は遼寧省の南部に位置し中国第二の大きい半島である。大連、丹東、營口、などの都市がある。

纒」、「高粱」、「日後」、「行許」、「早上」、「一堆兒」、「好像」、「合脾氣」、「好過」に追記された。追記した表現は全く違うが、両書どちらでも左文を追記したことから、右文の表現は北京官話であると言えよう。ただ、九江版『指南』に追記した「竹棍」、「奇了」は北京官話「秫秸」、「巧了」の意味と異なっていると考えられる。《現代汉语词典》(2005: 1266、694)により、「秫」は「高粱」の意味で、「秸」は「農作物脱粒後剰下的莖」の意味を表すことから、「秫秸」は「竹棍」ではなくて、『類編』の「高粱」は適当であると思われる。また、「巧了」、「磨稜子」の例を見ると、「奇了」、「竟挨」より『類編』の「好像」、「耽擱工夫」は適当であると思われる

12) 巧了/奇了，是廚子擱了木魚了罷。(九江版『指南』3-4)

13) 他巧了/好像提過，我卻不記得。(『類編』第130課)

14) 你就快拾掇去罷，別磨稜子/竟挨/耽擱工夫了。(九江版『指南』3-18)

(5) 「哦噠半片、」「筋筋兒」、「乏」

九江版『指南』では右文「哦噠半片、」「筋筋兒」、「乏」を削除し、左文そのまま空白となっているが、書き入れ版『指南』では「哦噠半片、」「筋筋兒」を「邇裡邇邇」、「老了」に追記し、『類編』は「乏」を「倦」に追記した。「哦噠半片、」「筋筋兒」、「乏」は全て北京語の特徴を有する語彙である。対応している南方官話を追記しないと、文として成立できない。

15) 這麼哦噠半片/邇裡邇邇的啊。(書き入れ版『指南』3-4)

16) 這麼哦噠半片/※的啊。(九江版『指南』3-4)

17) 這個雞子兒煮得是筋筋兒/老了。(書き入れ版『指南』3-3)

18) 這個雞蛋煮的是筋筋兒/※。(九江版『指南』3-3)

19) 我倒不覺得乏/※。(九江版『指南』2-38)

20) 女徒一起的人走乏/倦了。(『類編』第106課)

## 5. おわりに

本稿は九江版『指南』、『類編』、書き入れ版『指南』の双行注の比較研究を通して、以下の結論を導き出した。上記の南北官話の対照表から、右文の表現は北京語の特徴を有する場合、追記した左文の表現は南方官話の表現とする可能性が高い。九江版『指南』の左文はそのまま空白している箇所や、追記した表現は右文と相応しくない箇所があるが、『類編』と書き入れ版『指南』はそれらの箇所を補足した。また、三書の比較研究を通して、拙稿(2019)に挙げられた南北官話は半分以上南北官話に属することがわかった。

参考文献

- 日下恒夫 1974 「清代南京官話方言の一斑 -泊園文庫蔵《官話指南》の書き入れ-」  
『関西大学中国文学会紀要』5号
- 徐世荣 1990 《北京土语辞典》 北京出版社
- 周一民 1998 《北京口语语法·词法卷》 语文出版社
- 尾崎實 2003 『官話類編』所収方言詞対照表』『或問』第6号（遺稿）
- 中国社会科学院语言研究所词典编辑室 2005 《现代汉语語词典》（第5版）商务印书馆
- 张美兰 李颖 2007 〈清末汉语介词在南北方言中的区别特征—以九江书局改写版《官话指南》为例〉《继往开来的语言学发展之路》 语文出版社
- 张美兰 2007 〈明治期间日本汉语教科书中的北京话口语词〉《南京师范大学文学院学报》  
2007年第2期
- 齐如山 2008 《北京土话》 辽宁教育出版社
- 齐灿 2016 〈19世纪末南北京官话介词比较研究—以《官话指南》《官话类编》注释为例〉  
『東アジア文化交渉研究』関西大学文化交渉学教育研究拠点
- 内田慶市 氷野善寛 2016 『文化交渉と言語接触研究 官話指南の書誌的研究 付影印・語彙索引』好文出版
- 郭锐 翟赟 徐菁菁 2017 〈汉语普通话从哪里来？—从南北官话差異看普通话词汇，语法来源—〉『中国言語文化学研究』第6号 大東文化大学大学院外国語学研究科中国言語文化学専攻
- 孫云偉 2019 『明治期北京官話教科書「官話指南」及び学習補助教科書の総合研究』  
大東文化大学 博士論文